

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2779101803		
法人名	(株)カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島		
所在地	大阪市淀川区加島4-17-29		
自己評価作成日	平成29年2月25日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、利用者個々の生活を大切にその人にあった生活リズムを大切にします 2、食事は「食べたい時に、食べたい物を」一番にしています。 3、職員はいつでも気付きを大切に、職員同士が注意できる環境を作っています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体は、関西一円に「ここから」の名前を冠して、グループホーム、小規模多機能型介護、デイサービス等、22ヶ所の事業所を運営する、(株)カームネスライフである。ホームは、平成18年3月に、3階建ての2～3階部分に、2ユニットで開設した。1階には、デイサービスを併設している。事業所の理念を「地域に根差し、地域と共に生活できる環境を提供します」、「心身共に健康で楽しく過ごせるように支援します」としている。特に、ケアの重点を、「生活を楽しみ、生活を取り戻す」、として、利用者の残存(潜在)能力を引き出す自立支援(食事作り、清掃、行事・レク参加、趣味等)を実践し、職員には日常の介護支援を通して「気づきを築く」ように管理者は教育を徹底している。管理者を含め2名の看護師を配置し、日常的に利用者の健康管理を行い、看取りに至るまでの医療連携体制も構築している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝 ミーティングでリネンを唱和して共有している	法人理念(4項目)を基本として、事業所理念を「地域に根差し、地域と共に生活できる環境を提供します」、「心身共に健康で楽しく過ごせるように支援します」として、毎朝のミーティングで理念を唱和し、事務所内にも理念を掲げて、全職員で理念を共有して実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に支えられている施設として、地域の掃除、保育所交流、催し物の参加、地域のクリニックとの連携等を通して交流を深めている	理念に「地域に根差し、地域と共に生活できる環境を提供します」とある様に、地域で開催される各種の行事に積極的に参加している。夏祭り、敬老の日、運動会、清掃活動、防災訓練、保育所との交流、ボランティアとの習字、音楽等々での密なる交流がある。	新しい企画として、事業所内に、「加島カフェ」を開催した。地域の高齢者が気軽に話し合い、参加できる。ここでは、手作りおやつと飲み物も提供される。今後、この企画が地域との交流を一層活性化することが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年の9月からカフェを開催し少しでも理解を深めようと努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、事故報告、身近な問題を細かく報告し、意見を早期に取り入れ形している	平成28年度は、年6回開催した(3回は書類提出)、参加者は、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、施設館長等の参加で、事業所の各種活動内容、行事、研修等を報告し、双方向的な会議を実施した。会議録は玄関に張り出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が入居されるようになり、相談や窓口での話し合いが多くなっている。また、情報の収集や事故報告も細かくしている	日常的に、市の担当者とは、相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。運営推進会議時には、市の担当者と事業所の各種ケアの情報交換を行い、ケアの質の向上に向けた協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については自由に入出入りが出来ない人たちに対してどう考えていくのか、今後も検討を重ねていく事だと思っている	職員は身体拘束をすることの弊害は理解している。定期的に身体拘束・虐待について研修を行い、身体拘束・虐待ゼロを目指したケアに取り組んでいる。玄関前が車道で安全を確保する為に施錠をしているが、利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通して虐待の意味を職員が共有していく。職員同士が注意できる環境を作る事。介護を楽しむ事が大切である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にご家族に説明し、その方の権利を守る事の大切な事話し、制度の説明もしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的に読み上げるのではなく、相手とゆっくり話し合いをし、契約の内容説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を聞き、早期に対処できる様にしている。又、翌朝のミーティングで会議の報告をし、意見などは共有している。要望については出来るだけ沿うようにしている。	苦情相談窓口を設置して意見・苦情・不安への対応をし、2ヶ月に1回は「ここから加島新聞」を発行して、利用者の日常生活、各種行事・イベント報告等を家族に報告し、家族会(年1回)や家族の訪問時にも意見・提案等を傾聴して、それらを、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の疑問点、意見などはリーダーを通して聴く様にしている。必要時は会社の方針も含め答を出している	毎朝のミーティングで職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。各職員は、前期・後期に分けて、介護業務チェックリストに従い、自己評価を行い、目標設定記録を作成して、年2回の管理者との面談で、話し合い、職員から生の声を傾聴し、動機づけやスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	派遣の社員が希望するなら派遣会社、本社とも話し合いをしたり、職員の勤務状況をチェックし少しでもよい状況に盛って行けるように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を内外で必ず派遣も含め受ける機会を確保している。また、自分たちの仕事が毎日の学習である事も伝えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会、又、オレンジネットなど出来るだけ出席し、意見交換や自分の振り返りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを行い、本人の言動を裏から見て不安感や、希望なども考えるようにしている。ケアプランをこまめに評価し変更している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や、不安などゆっくり聞きながらその方に合わせてゆっくり聞く様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にどうなって頂きたいか。希望を聞きながら年齢的にも無理なく、生活出来る様にはなし、必要時にはリハビリも進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お買いもの、日常生活の手伝いや出来る事を一緒にしている。又、食事の準備なども一緒にすることで共に生活している関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に状況報告と、その月の写真を送り笑顔で過ごされている事を伝える。出来るだけ、良いところをお伝えする様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までされていた地域行事や 家庭での行事、法事など出来るだけ継続して行っている。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、利用者の従来からの生活の継続性を確保した支援をしている。親しい友人、知人、住んでいた近隣の人の訪問や馴染みの近隣公園の散歩、コンビニ、スーパーでの買い物、月命日のお墓参り等や家族との外食等での支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶を進める時は必ず周りの方に一緒に進めたり、洗濯物、食事の準備なども一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族と連絡したり、近況を聞いている。何年も前に退去されたご家族が今も野菜を届けて下さっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体のニーズ、意向を周りの情報等から把握し、出来るだけ本人主体のケアにつなげている	アセスメントシート、日々の関わり、利用者の日常の言動、家族からの情報を収集して、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がすように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在の状況はその方の生活歴にあり、馴染みの事を聞いたり、原因を探りながら少しでも活かせる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しでも安楽に過ごせる様に、又、できる能力は存続できる様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンスを通して現状の変化を見逃さないようしている。ケアプランは評価も大切にしている	アセスメントシート、診断書、ホーム日誌、各種ケアチェック表、支援経過記録、介護記録、本人、家族、職員等から個別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、職員が毎日記録する、介護記録を基に、会議を行い、介護計画実施表を基に、評価表でモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの沿った記録をし、その時を見逃さない様にし、プランが現状の物であるように努力している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職で食べれない物は食べれる物を準備し、「できない事なにもない」事を大切に出来るように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容、お買い物、催し、コンビニでの買い物など地域を生活の拠点である事を大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最初の面接時に意向を聞き、どうしても通いたい所があれば思いを継続する様にしている	本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医の継続をしている。利用者及び家族が事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、事業所の協力医療機関で受診ができるように対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間の状況や変化を看護師に報告し、早期に対応出来る様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はご家族に早急にまた適切な対応をし、夜間などご家族が来られるまで職員が付き添いをしたりしている。又、状況を把握し、退院に向けて医療と話し合いをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてはご家族との話し合いを密にし、本人の意思、ご家族の思いを大切にしている。またその思いや状況を職員にも報告し共有している	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」があり、入所時の早い段階から、現状ではどこまでの支援ができるかを家族に説明し、同意を得ている。2名の看護師を配置し、医療連携体制を構築して、日頃から利用者の健康管理と安全な生活が送れるように援助している。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や、いざという時の心構えなどの研修はしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間避難、災害避難訓練、火災訓練など進めている。地域にも声かけをしている	年2回の避難・救出訓練は確実に実施している。毎月夜間時の対応災害訓練も実施している。町会からの協力で通所事業所との合同訓練も実施している。スプリンクラーの設置や防災グッズ、備蓄も準備して、安心・安全を確保した災害対策体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声かけ、何気ない一言に注意する様になっている	接遇については、日常的にOJT(職場中心)で管理者、リーダー、職員が一体となって指導し合っている。全職員が対人援助サービスの知識と技術を身につけるように取り組み、人生の先輩に対して尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆で行う事に参加しなくても無理に進めなかったり、個人で何かしたい希望があれば聞く様になっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルは加島ではなく、利用者のペースで進めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧が好きな方、毛染め、カットなどその方が行きつけで出来るように配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎ、レタスを剥いたり、玉子を割ったり、クッキー作りや一緒に行える事をしている	献立及び食材は業者より福祉食が提供される。調理は、利用者と協働で、ホームのキッチンで、食材の切る音、食材の煮る匂いで、楽しみながらの食事作りもある。利用者との各種の(おやつ作り)もある。随時の給食会議を行い安全を確保し、職員も一緒に食卓を囲み、家族的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記録などをし、必要な量は確保出来る用意しているが無理に進めず、業務的にこの量を飲まないといけないという決まりは作っていない。ゼリー等に変え工夫もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレ排泄を心掛け誘導している	排泄チェック表に時系列に記録された、個人別排泄記録を基に、個人別排泄パターンを把握して、トイレ誘導を促がしている。(個人別の習慣も考慮)、あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、毎日のトイレ誘導などを実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は拒否がある時は無理に進めず、タイミングを計り進めている。	週3回を基本としているが、利用者の体調や希望には柔軟に対応をしている。入浴拒否の場合には、日時変更、足浴、清拭、シャワー浴で対応している。入浴の1回ごとに個浴槽内のお湯を入れ替えて清潔な入浴を心掛けている。柚子湯、菖蒲湯等の季節感を楽しみながらの入浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼も安静が必要な方は臥床時間を作り、夜間眠りにくい方には温かい物を準備し、すこしお菓子を食べてゆったり眠れるようにしている。夜間不眠の方も無理に寝る様に進めず、その方のリズムを大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については一人一人確実に服用できる様に、また、内容についても職員に説明している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で話しながら食事の支度をしたり、クッキーなどお菓子作りをしている。掃除もできる方は自分でして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事、外泊、病院、お誕生日の夕食、また本人の希望での場所にも出来るだけ浴うようにしている	利用者の体調や心身状況を考慮して、天気が良ければ近隣の公園の散歩、スーパー、コンビニでの買い物、クリニック、病院、お花見、遠足等や家族とのドライブ、夕食、お墓参り等やホームの広いバルコニーでの外気浴、日光浴等、近隣の人々とのふれ合い、季節を感じながらの支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おかねは持って頂くが、少額でなので、お買い物に行った時はこちらからお金を渡し、自分で支払いをして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を希望される方にはかけられる様にしている。手紙などきた方にはお返事を進め便せんなどを準備している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音、あかり、温度など、利用者に合わせて工夫している。熱い日などには薄いカーテンを引き直接光にあたらない様にしている	玄関前の広い敷地には植え木や花壇に草花が植えてあり、心が和む。採光で、明るく、清潔な食堂兼居間の入り口のカウンターには、生け花、清涼飲料ボトル、コーヒーマーカー、利用者の個人別アルバム棚等が置かれている。壁には、大小の絵画、カレンダー、習字、ガラス窓越しに、広いバルコニーが見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の置き場所を変えたり利用者と一緒に話が出来る空間づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に大切な物は無いか、今まで側にあった物、例えばタンス、仏壇なども置き、今まで住んでいた状況と環境を同じようにしている	居室には、利用者の馴染みの物が持ち込まれている。家具、家族の写真、お仏壇、テレビ、ポータブルトイレ、壁には習字等が貼られている。床は、クッション材を使用して転倒の際の安全予防をしている。ナースコール、スプリンクラーを設置し、安心・安全を確保した、居心地よく過ごせる、好住環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、避難誘導、生活する居室など自分自身がわかるようにしている		